

総会資料 (サーキュラーNO. 08, 2015年7月29日配信) 補足

馬場 俊介

(若手の会事務局広報・書記, 日本天文学会キャリア支援委員)

アンケート対象者人数の訂正

- 若手の会会員 + 夏の学校参加者

誤

人数	M1	M2	D1	D2	D3	その他	計
若手の会員	185	117	59	52	25	1	439
夏学参加者	223	65	35	23	2	2	350
会員かつ参加者	153	51	29	21	2	0	256
計	255	131	65	54	25	3	533

正

人数	M1	M2	D1	D2	D3	その他	計
若手の会員	185	117	59	52	25	1	439
夏学参加者	217	65	34	23	2	2	343
会員かつ参加者	150	51	28	21	2	0	256
計	252	131	65	54	25	3	530

天文教育フォーラムへ持ち込む問題提起

(総会で説明)

- ポスドク研究員を続けても良いと思える年齢について、学生の希望と実態は一致しているか。
- 科学館職員やサイエンスコミュニケーター志望の学生が少ない。背景には、パーマネントなポストの少なさ、情報不足が原因としてあるのではないか。ポストの増加や情報発信は行えないか。
- 就職希望の修士の学生は、研究と就職活動を両立できていない。就活について、研究室の意識や配慮は万全か。
- 大学などの他の機関と重複しないキャリア支援、天文学会だからこそ可能なキャリア支援を行うべき。どのような内容が考えられるだろうか。
- 適切な進路選択のためには、一般的な就職先、様々な業種の仕事内容の情報、求人情報、結婚・出産・育児を含めた将来設計の多様なロールモデルを提供する必要があるのではないか。
- 天文学会のキャリア支援としては、アカデミックポストの減少を防ぐのはもちろんのこと、企業情報の収集と研究能力の不足などでアカデミックコースを離れる人を対象とした就職支援を行い、職の拡大を進めるべきではないか。

天文教育フォーラムへ持ち込む問題提起 (総会后いただいた意見)

- 職の拡大をすすめるためには、天文学会員の意識調査だけでなく、一般企業などに対しても、天文分野で学位を取得した人材の雇用に関する意識調査をするべきではないか
- 結婚・出産・育児は、男性にとっても重要な事項であるはずである。ロールモデルの提供に当たり、これらの点は性別に依らず着目すべき